

# 当業的利用者アンケート 集計結果

調査期間:平成19年2月16日～2月28日

対象:先物協会会員 75社

回答会員数 18社

会員より当業的利用アンケートをお願いした社

330社

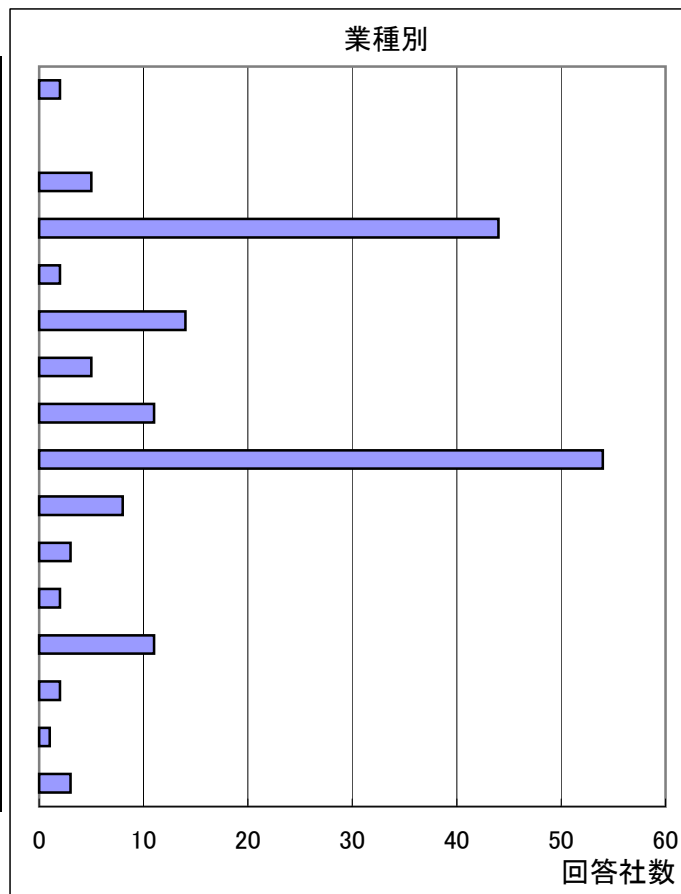
同アンケートの回答があった社

167社

## プロフィール情報

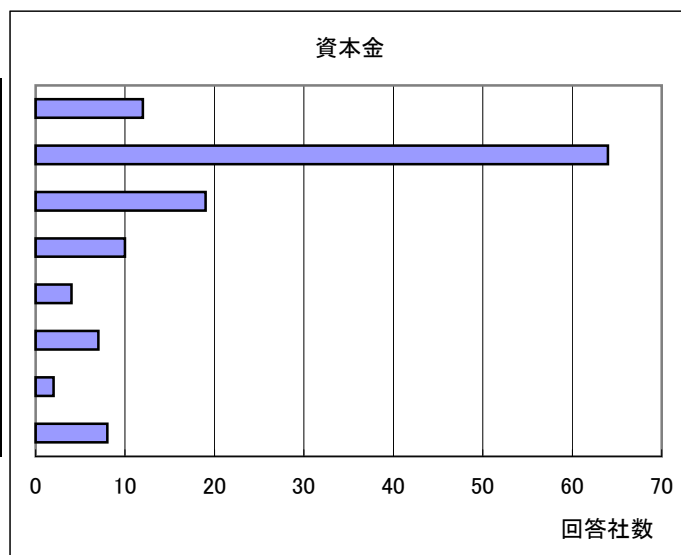
### (1) 業種 割合(%)

業種	社数	割合(%)
商品取引員	2社	1.2%
取引所一般会員	0社	0.0%
ディーラー・トレーダー	5社	3.0%
総合商社・商社	44社	26.3%
地金商社	2社	1.2%
穀物商社	14社	8.4%
ゴム商社	5社	3.0%
ゴム製造・販売業	11社	6.6%
石油製造・販売業	54社	32.3%
ガソリンスタンド	8社	4.8%
金属・鉄鋼製造販売	3社	1.8%
貴金属・製造販売	2社	1.2%
食品製造・販売業	11社	6.6%
畜産業	2社	1.2%
金融機関	1社	0.6%
その他	3社	1.8%
回答合計	167社	



### (2) 資本金 割合(%)

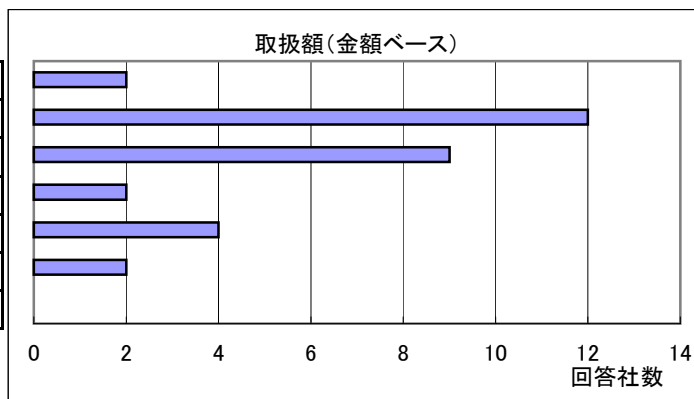
資本金	社数	割合(%)
1千万円未満	12社	9.5%
1千万円以上～1億円未満	64社	50.8%
1億円～10億円未満	19社	15.1%
10億円～50億円未満	10社	7.9%
50億円～100億円未満	4社	3.2%
100億円～500億円未満	7社	5.6%
500億円～1,000億円未満	2社	1.6%
1,000億円以上	8社	6.3%
回答合計	126社	



(3) 上場商品に係る現物取扱高

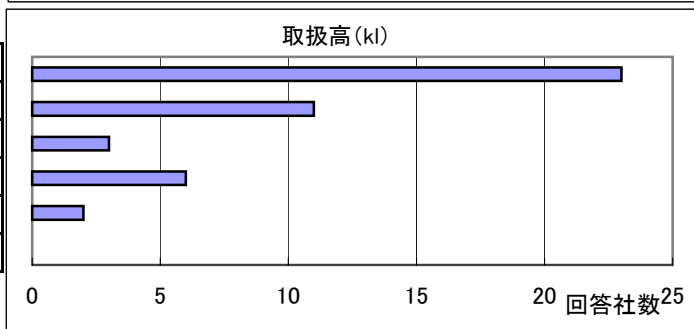
① 金額ベース 割合(%)

1億円未満	2社	6.5%
1億円～10億円未満	12社	38.7%
10億円～50億円未満	9社	29.0%
50億円～100億円未満	2社	6.5%
100億円～500億円未満	4社	12.9%
500億円～1,000億円未満	2社	6.5%
1,000億円以上	0社	0.0%
回答合計	31社	



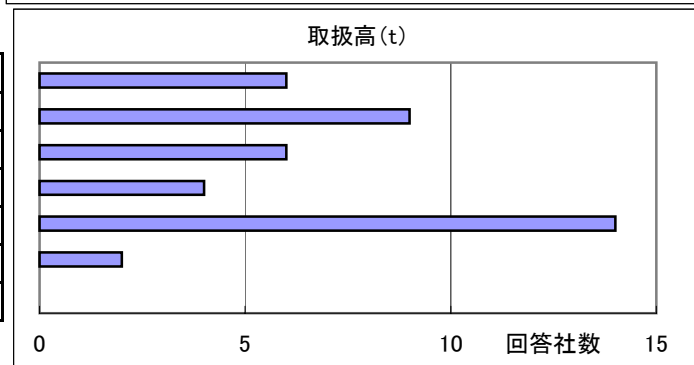
②-1 取扱高ベース(kl) 割合(%)

1万kl未満	23社	51.1%
1万kl～10万kl未満	11社	24.4%
10万kl～100万kl未満	3社	6.7%
100万kl～500万kl未満	6社	13.3%
500万kl～1000万kl未満	2社	4.4%
1000万kl以上	0社	0.0%
回答合計	45社	



②-2 取扱高ベース(t) 割合(%)

1000トン未満	6社	14.6%
1000トン～1万トン未満	9社	22.0%
1万トン～5万トン未満	6社	14.6%
5万トン～10万トン未満	4社	9.8%
10万トン～50万トン未満	14社	34.1%
50万トン～100万トン未満	2社	4.9%
100万トン以上	0社	0.0%
回答合計	41社	

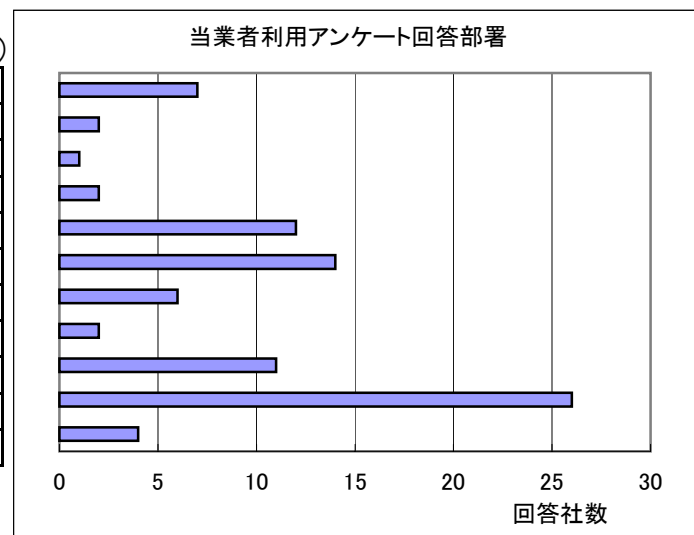


③ 取引枚数ベース 割合(%)

1千枚未満	0社	0.0%
1千枚～5千枚未満	0社	0.0%
5千枚～1万枚未満	0社	0.0%
1万枚～3万枚未満	0社	0.0%
3万枚～5万枚未満	1社	100.0%
5万枚～10万枚未満	0社	0.0%
10万枚以上	0社	0.0%
回答合計	1社	

(4) 回答者の所属部署 割合(%)

石油燃料部門	7社	8.0%
ゴム部門	2社	2.3%
化学部門	1社	1.1%
金属部門	2社	2.3%
食糧部門	12社	13.8%
業務管理・仕入販売部門	14社	16.1%
営業部門	6社	6.9%
総務部門	2社	2.3%
トレーディング部門	11社	12.6%
会社役員	26社	29.9%
その他	4社	4.6%
合計	87社	



**Q1 現在、利用している商品先物市場**

1) 農産物市場

36 社
------

具体的な銘柄

東穀一般大豆	8
--------	---

東穀コーン	6
-------	---

東穀小豆	6
------	---

2) コーヒー市場

4 社
-----

3) 砂糖市場

5 社
-----

4) 貴金属市場

9 社
-----

具体的な銘柄

金	3
---	---

白金	3
----	---

銀	2
---	---

5) ゴム市場

31 社
------

具体的な銘柄

東工取RSS	6
--------	---

中部大阪RSS	4
---------	---

中部大阪TSR	4
---------	---

6) 石油製品市場

80 社
------

具体的な銘柄

東工取ガソリン	6
---------	---

中部大阪ガソリン	5
----------	---

東工取灯油	5
-------	---

7) 原油市場

20 社
------

8) 鶏卵市場

4 社
-----

9) 鉄スクラップ市場

1 社
-----

10) 飼料指数市場

0 社
-----

11) コーヒー指数市場

0 社
-----

12) その他

7 社
-----

具体的な銘柄

東工取アルミ	2
--------	---

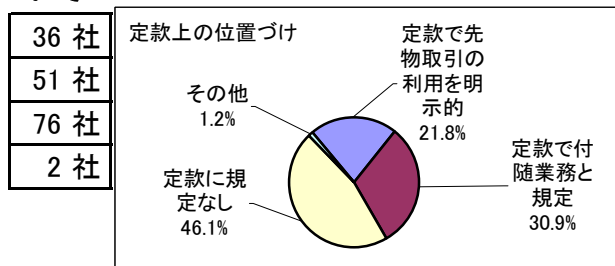
ニッケル	2
------	---

中部大阪アルミ	1
---------	---

**Q2 商品先物市場の利用についての会社定款上の位置づけについて**

- 1) 定款で先物取引の利用を明示的に規定
- 2) 定款で「付随する業務」として規定
- 3) 定款には特段の規定なし
- 4) その他

具体的に : 別紙参照



**Q3 商品先物取引の利用目的について(複数回答可)**

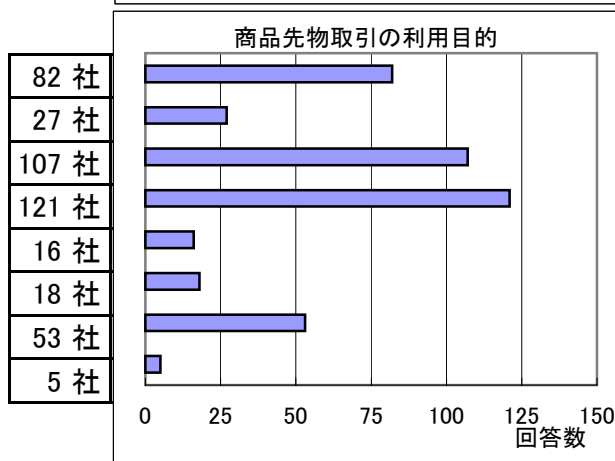
- 1) 1年以内の予定取引のヘッジ
- 2) 1年超の予定取引のヘッジ
- 3) 価格変動リスクの回避
- 4) 上場商品現物の購入又は販売(受け渡し)
- 5) 換金(上場商品の売却)のため
- 6) 倉庫機能(商品必要時まで在庫を持たないようにするため)
- 7) 市場間鞘取り等トレーディング
- 8) その他

ヘッジの種類について

- 1) 上場商品の購入・販売に関係した購入価格・販売価格の固定のため
- 2) スワップや店頭デリバティブ販売等に伴うリスク管理等のため
- 3) その他

具体的に : 別紙参照

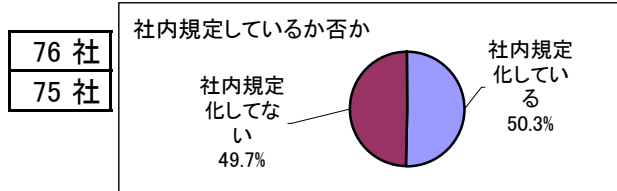
ヘッジ取引のノウハウ(ヘッジ手法)の概略について



109 社
24 社
8 社

**Q4 ヘッジ取引等実行方針が社内規定化しているか否か。**

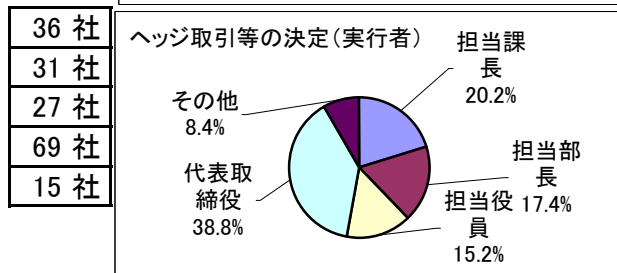
- 1) 社内規定化されている
- 2) 社内規定化されていない



**Q5 実際のヘッジ取引等の決定(実行者)は誰が行うか。**

- 1) 担当課長
- 2) 担当部長
- 3) 担当役員
- 4) 代表取締役
- 5) その他

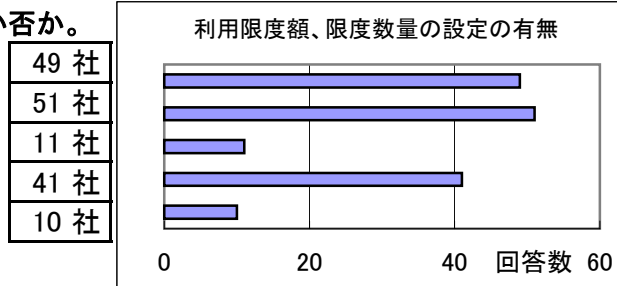
具体的に：別紙参照



**Q6 商品先物取引の利用限度額、限度数量等を設定しているか否か。**

- 1) 取引限度数量(又は取引限度額)のみを設定
- 2) 取引限度数量(又は限度額)と損失限度額の両方を設定
- 3) 損失限度額のみを設定
- 4) いずれも設定していない
- 5) その他

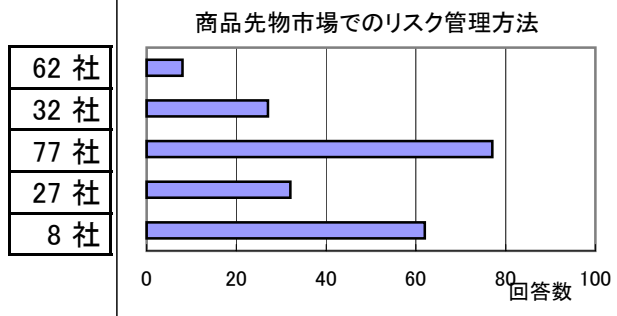
具体的に：別紙参照



**Q7 商品先物市場の利用に係るリスク管理方法について**

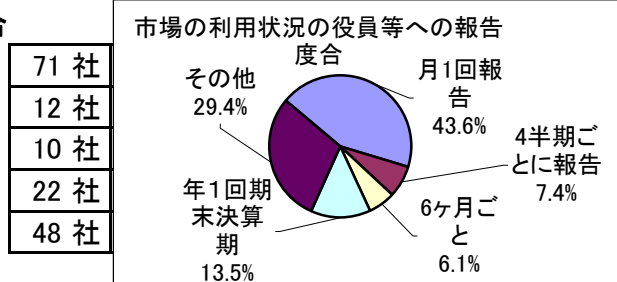
- 1) 取引予定数量との比較による管理
- 2) 取引契約(約定)金額または想定元本による管理
- 3) 時価による管理
- 4) 価格変動率の変化に伴う影響額の把握による管理
- 5) その他

具体的に：別紙参照



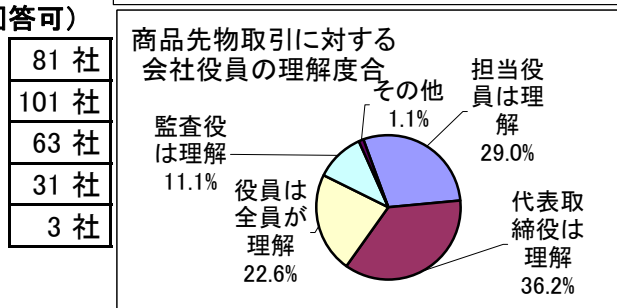
**Q8 商品先物市場の利用状況について役員会等への報告の度合**

- 1) 月1回報告
- 2) 4半期(3ヶ月)ごとに報告
- 3) 上期・下期等6ヶ月ごとに報告
- 4) 年1回期末決算期に報告
- 5) その他：別紙参照



**Q9 役員は商品先物取引について理解があるか否か。(複数回答可)**

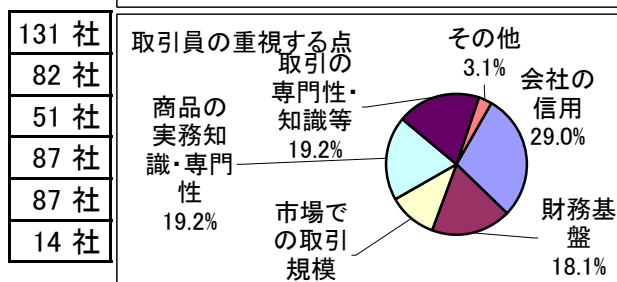
- 1) 担当役員は理解している。
- 2) 代表取締役は理解している。
- 3) 役員は全員が理解している。
- 4) 監査役は理解している。
- 5) その他：別紙参照



**Q10 取引相手となる商品取引員の重視する点(複数回答可)**

- 1) 会社としての信用
- 2) 財務基盤
- 3) 商品市場における売買高等取引数量(規模)
- 4) 上場商品の生産・流通・販売についての実務知識・専門性
- 5) 商品先物取引利用にかかる専門性・知識(ノウハウ等)
- 6) その他

具体的に：別紙参照



# 別紙

## 具体的な内容

### Q2:商品先物市場の利用についての会社定款上の位置づけ。(その他)

- ・天然ゴムを含む上場商品を扱う規定がある (1社)
- ・先物取引規定あり (1社)
- ・製品販売数量に応じた分のヘッジ (1社)

### Q3:商品先物取引の利用目的(その他)

- ・市場間鞘取り (1社)
- ・スペキュレーション (1社)
- ・Metal Sourcing (1社)
- ・受渡し(小売業者へつなぐ) (1社)
- ・利益追求のため (1社)
- ・販売数量に応じたヘッジ (1社)
- ・安定的仕入先 (1社)
- ・現在利用していない (1社)

### ヘッジ取引のノウハウ(ヘッジ手法)の概略。

- ・現物の売買成約時の反対取引をする
- ・海外買付け分の売りヘッジ、国内売付け分の買いヘッジ
- ・来月の業転価格との比較
- ・穀取の価格が安い時、現受けする
- ・在庫の1/2程度
- ・海外よりの仕入価格と国内定期価格の動きを注視し、取進める
- ・現物に対する売りヘッジ
- ・現物不足時の買いヘッジ
- ・現物価格と定期市場におけるアービトラージ
- ・価格固定のため一旦ヘッジを行い、商品の保有期間、保管コスト、金利を踏まえ、鞘関係を鑑みて限月や市場を乗り換えていく
- ・灯油の販売価格を入札などで単価契約した場合、先物を買っておけば購入価格が決まるので損をすることはない。
- ・灯油(冬季)仕入価格安定の為
- ・東京市場＝海外先物市場＝海外現物市場＝為替＝フレート全ての市場、イーブンポジションのヘッジ取引
- ・海外価格ベースでの購入価格に対しての国内市場ヘッジ
- ・限月間差による在庫オペレーション
- ・市場間格差によるアービトラージ
- ・製品の原料価格以下になったら買って行く
- ・海外で買った現物に対し、国内価格下落のリスクを避けるため、国内取引所で売ヘッジを行う。
- ・現在、考えていない
- ・原産地で直接購入する際、価格の下落をヘッジする
- ・現物に対する売りヘッジ、現物不足に対する買いヘッジ

### Q5 : 社内でのヘッジ取引等を決定する者(実行者)について。(その他)

- ・権限者により承認された者 (3社)
- ・担当者 (2社)
- ・トレーダー (2社)
- ・行う場合は代表取締役 (1社)

### Q6 : 商品先物取引の利用限度額、限度数量等を設定しているか否か。(その他)

- ・取引限度額 (1社)
- ・VaR (1社)
- ・必要数量 (1社)
- ・小売販売可能数量以内 (1社)
- ・全社販売数量の20%以内 (1社)

**Q7:商品先物市場の利用に係るリスク管理方法について。(その他)**

- ・社内システム (1社)
- ・数量、金額、現物との関係上で、一概には言えない (1社)
- ・損益管理のみ (1社)
- ・予算を設定する (1社)
- ・状況を見ながら取引するか否か考える (1社)
- ・会社がリスクを負うほどは利用しない (1社)
- ・詳細不明 (1社)

**Q8:役員会等への商品先物市場利用状況の報告方法について。(その他)**

- ・毎週報告 (7社)
- ・毎日報告 (4社)
- ・利用ごとに報告 (3社)
- ・特に報告なし (2社)
- ・社長には決算時のみ (1社)
- ・購入量がわかるように掲示 (1社)
- ・役員が利用している (1社)
- ・会計事務所との連絡を行う (1社)
- ・評価損益の報告を行う(評価損時はレポート提出) (1社)

**Q9:貴社の役員は商品先物取引についての理解がありますか。(その他)**

- ・会社役員全員が理解しているとは言い難い。(2社)
- ・会社役員は理解している。(1社)
- ・担当役員は反対している。(1社)

**Q10:取引相手として商品取引員を選ぶ際の基準として重視する点。(その他)**

- ・会社の信頼性、世間的評判 (3社)
- ・担当者の人柄、熱心さ (2社)
- ・グループ、関係会社 (2社)
- ・穀物の受渡を希望する意見があった。(1社)
- ・受渡し実績 (1社)
- ・オンライントレードの機能、手数料 (1社)
- ・現在の商品取引(一般大豆)は売り手が有利なルールがある。売買は売り手と買い手が公平であるべきであり、不公平が続けば、取引に参加しなくなる。(1社)
- ・現物化する際の枚数やその条件を調整する能力 (1社)